



3 ソフトウェア 編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

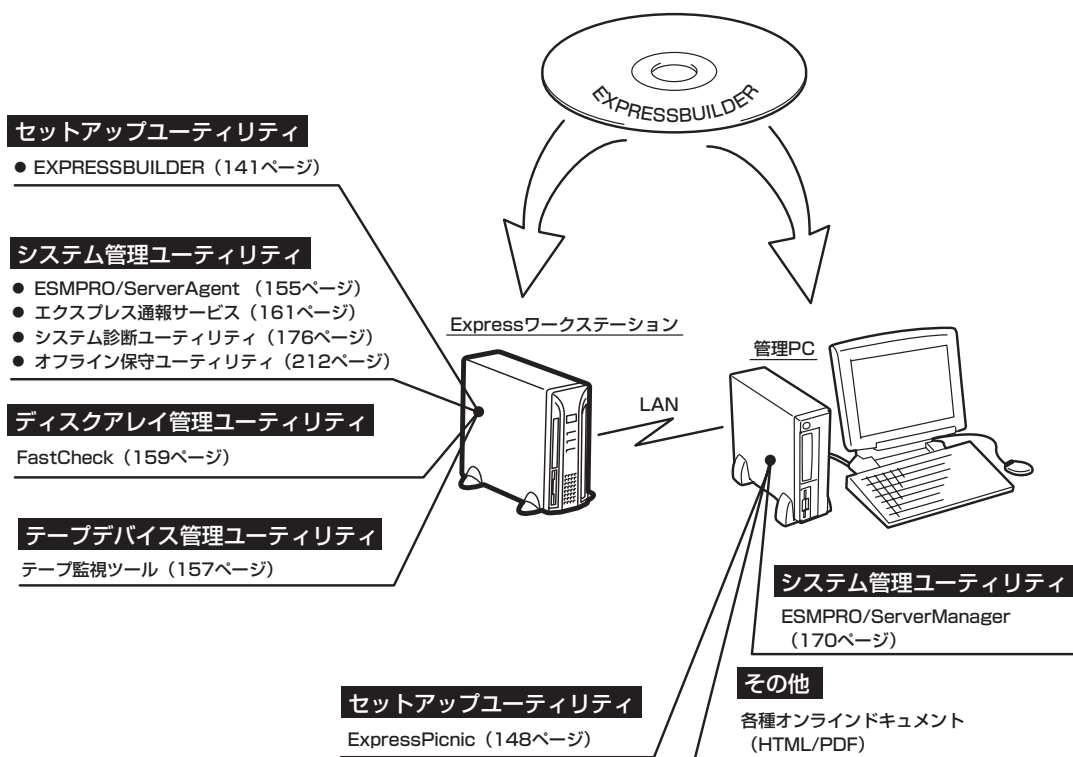
- 添付のCD-ROMについて(→140ページ) Expressワークステーションに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているソフトウェアについて紹介します。
- EXPRESSBUILDER(→141ページ) セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。
- ExpressPicnic(→148ページ) シームレスセットアップ用パラメータディスク(セットアップパラメータFD)を作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。
- Express本体用バンドルソフトウェア(→155ページ) Expressワークステーションにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。
- 管理PC用バンドルソフトウェア(→170ページ) Expressワークステーションを監視・管理するための管理PCにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、Expressワークステーションを容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、Expressワークステーションの機能をより多く引き出すことができます。



CD-ROM「EXPRESSBUILDER」は、Expressワークステーションの設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



ビルド・トゥ・オーダで購入した装置のハードディスクには電源管理をする次のユーティリティがインストールされている場合があります。それぞれのページを参照してセットアップをしてください(これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません)。

- ESMPRO/UPSCONTROLLER Ver. 2.1(164ページ参照)
- PowerChute *plus* Ver. 5.11J/5.2J(168ページ参照)

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの際にはハードウェアの構成を運用時と同じ状態にしてください。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

● EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERをExpressワークステーションのCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でExpressワークステーションを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目からExpressワークステーションをセットアップします。



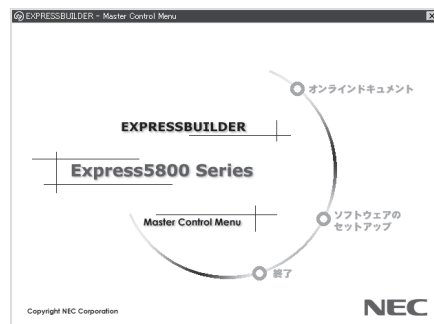
Expressワークステーション以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpressワークステーション以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。

EXPRESSBUILDER トップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDER トップメニュー」を参照してください。

● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows 95/98/Me/XPまたはWindows 2000、Windows NT 4.0が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
2. ExpressワークステーションのCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

キーボードの選択

EXPRESSBUILDERを起動すると、キーボードの選択メニューが表示される場合があります。購入したシステムで使用するキーボードを選択してください。

Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver3.xxxx-x Copyright(C) NEC Corporation 2001

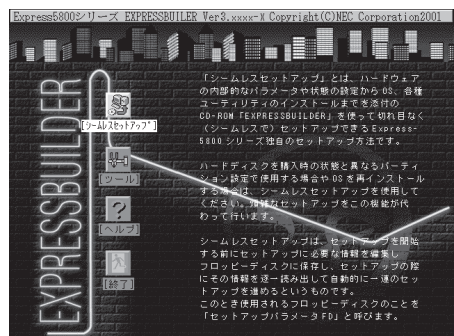


キーボードの選択メニューは、1度設定するとそれ以降は表示されません(出荷時に設定しているため、通常このメニューは表示されない場合があります)。

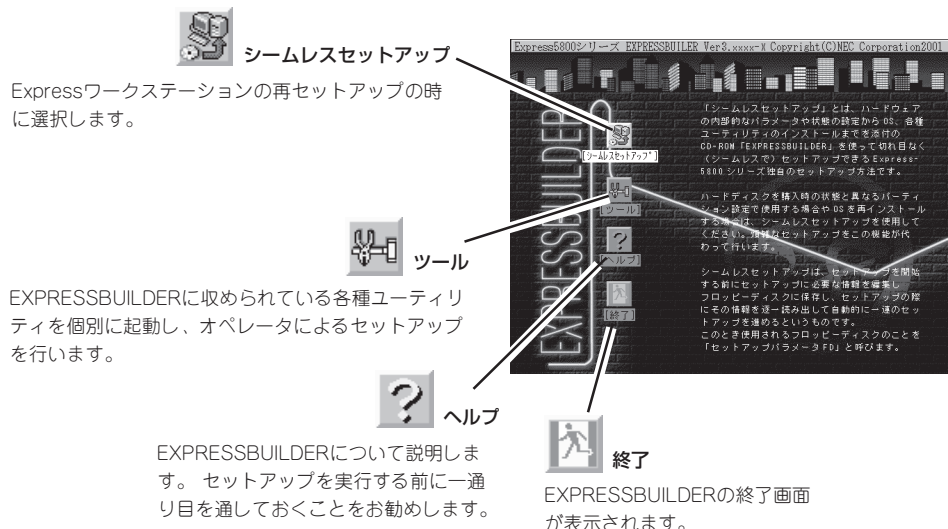
キーボードの設定を変更したい場合は、EXPRESSBUILDER起動中(右図の画面を表示中)に<K>キーを数秒間押してください。画面にキーボード選択画面が現れ、キーボードの再設定ができます。



EXPRESSBUILDERが起動すると、右図に示す「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が現れます。画面上のメニューの機能については次のとおりです。



EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。



シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」は、Expressワークステーションを再セットアップするときを選択するメニューです。

メニューを選択後、いくつかの設定項目を選択するだけで切れ目なく（シームレスで）、オペレーティングシステムのセットアップを行います。

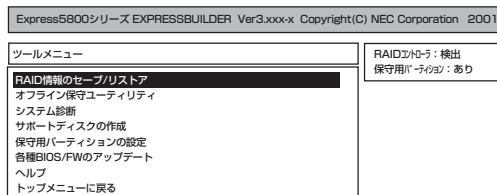


重要

- このメニューを使用するときは、ディスプレイ装置以外の周辺機器を接続しないでください。また、内蔵のハードディスクも購入時の状態(台数・接続)にしておいてください。
- 「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクの内容が失われることがあります。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。より詳細に設定したい場合などに使用してください。また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。



● RAID情報のセーブ/リストア

このメニューはIDEディスクミラーリングコントローラ (N8103-74)が接続されているとき表示されます。

ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存または、フロッピーディスクから復元することができます。

－ RAID情報のセーブ

フロッピーディスクにコンフィグレーション情報を保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。

－ RAID情報のリストア

フロッピーディスクからコンフィグレーション情報を復元します。「RAID情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細は212ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動されます。176ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

－ Windows XP OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows XP Professionalをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

－ Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000 Professionalをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

－ Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows NT Workstation 4.0をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

－ ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

－ オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

－ システム診断ユーティリティ

システムチェックプログラムの起動用のサポートディスクを作成します。

● 保守用パーティションの設定

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」と「オフライン保守ユーティリティのアンインストール」以外の項目は表示されません。保守用パーティションの詳細については、9ページを参照してください。



「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、本体をリセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

－ 保守用パーティションの作成

16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保します。保守用パーティションの確保ができた場合またはすでに保守用パーティションが確保されている場合は、続けて各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

－ 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ(システム診断/オフライン保守ユーティリティ)を、CD-ROMから保守用パーティションへインストールします。インストールされたユーティリティは、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動した場合に、使用することができます。

－ 各種ユーティリティの更新

各種ユーティリティ(システム診断/オフライン保守ユーティリティ)を、フロッピーディスクから保守用パーティションへコピーします。各種ユーティリティがフロッピーディスクでリリースされたときに実行してください。それ以外では、本項目は使用しないでください。

ー オフライン保守ユーティリティのアンインストール

システムに登録されているオフライン保守ユーティリティインストール情報を削除します。ユーティリティのファイルそのものは削除されません。この機能を実行すると、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動することができなくなります。オフライン保守ユーティリティのアンインストール後、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動するためには、再度、各種ユーティリティのインストールを行う必要があります。

ー FDISKの起動

ROM-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

● 各種BIOS/FWのアップデート

インターネットで配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、ExpressサーバのBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『58番街』: <http://express5800.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

● ヘルプ

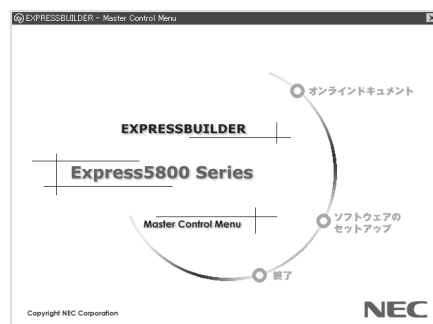
EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

● トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

マスターコントロールメニュー

Windows 95/98/Me/XP、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98/Me/XP、Windows 2000、Windows NTで動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないときがあります。そのようなときは199ページを参照して関連付けを再設定してください。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、Expressワークステーションのセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールやセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからExpressワークステーションをセットアップすることをお勧めします。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows 2000またはWindows NT 4.0をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

ExpressPicnicのインストール

セットアップパラメータFDを作成するためにWindows 2000またはWindows NT 3.51以降、Windows 95/98/Me/XPで動作しているコンピュータにExpressPicnicをインストールします。



ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

Windows XP・Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Me

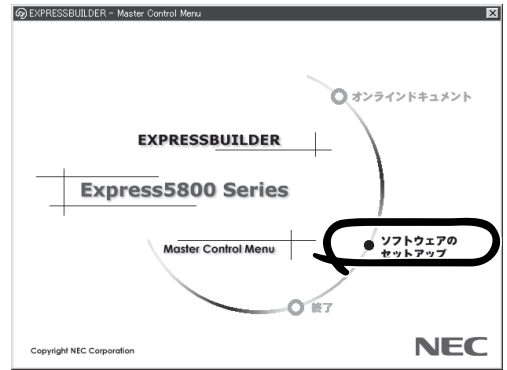
Windows XP、またはWindows 2000、Windows NT 4.0、Windows 95/98/Me/XPで動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。



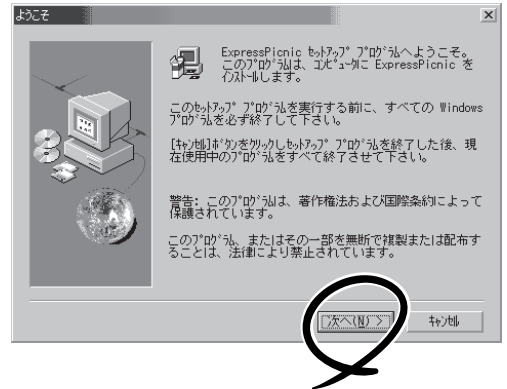
お使いになっているモデルによって画面に表示される内容が多少異なることがありますが、同じ手順でセットアップすることができます。

1. OSを起動する。
2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
マスターコントロールメニューが表示されます。

3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。
メニューが表示されます。
4. [ExpressPicnic]をクリックする。
セットアップウィザードが起動します。



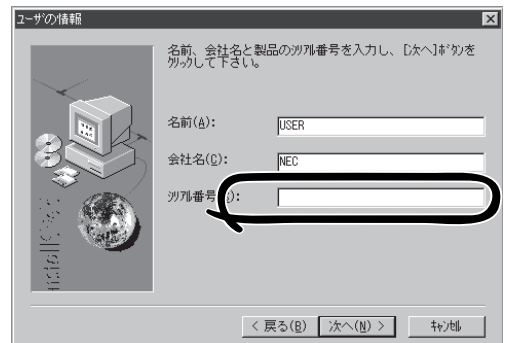
メッセージに従ってインストールを続けてください。



✓ チェック

[ユーザの情報]ダイアログボックスの[シリアル番号]を入力する必要はありません。

インストールを完了したら[終了]ボタンをクリックし、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。



Windows NT 3.51

Windows NT 3.51で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

1. Windows NT 3.51を起動する。
2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
3. ファイルマネージャまたはコマンドプロンプトから、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の「¥WINNT¥PICNIC¥SETUP¥SETUP.EXE」を実行する。

セットアップウィザードが起動します。メッセージに従ってインストールを続けてください。インストールを完了したら、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。

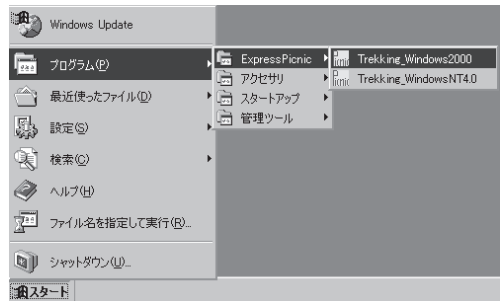


手順の中では、Trekkingコマンドをインストールしたときに指定したフォルダ名を「ExpressPicnic」と仮定しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる。

<Windows XP・Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Meの場合>

スタートメニューから[プログラム]—[ExpressPicnic]—[Trekking]の順にポイントし、インストールしたいOS ([Windows NT 4.0]または[Windows 2000 Windows XP])をクリックする。



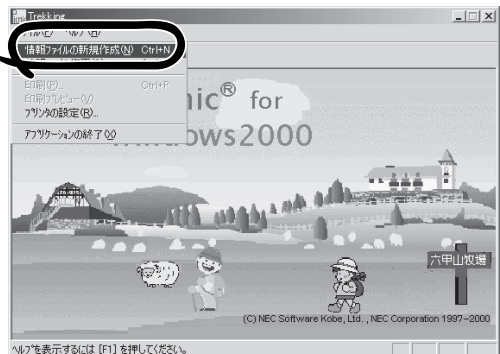
<Windows NT 3.51の場合>

プログラマナーの [ExpressPicnic]グループから [Trekking]アイコンをダブルクリックする。



2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

[NEC 基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。



重要

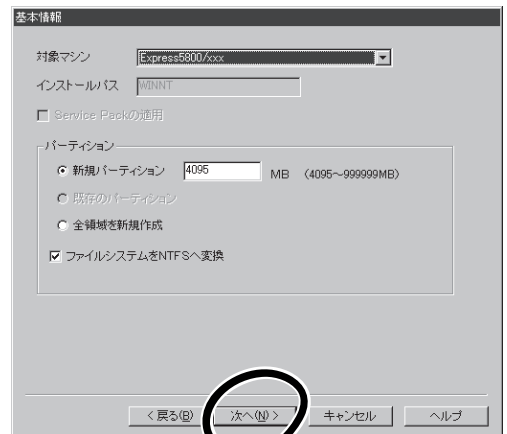
購入時のExpressワークステーションのハードディスクには、Windows XP、またはWindows 2000とWindows NT 4.0の両方のOSがインストールされています。使用するOSの選択には十分な検討をしてください(セットアップの完了後、選択しなかった方のOSは消去されます)。また、再セットアップでは、前回使用していたOSを選択してください。その他のOSを選択したいときは、選択したOSを別途購入していないとインストールできません。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。

チェック

[キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル指定]ダイアログボックスが表示されます。



5. [セットアップパラメータFD]チェックボックスをオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

6. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。



「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はオペレーティングシステムをインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの[情報ファイル修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。

追加アプリケーションのインストール

EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップ対応されている必要があります。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(150ページ参照)。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。

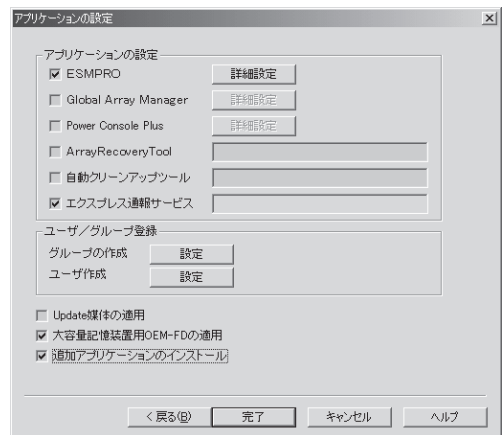
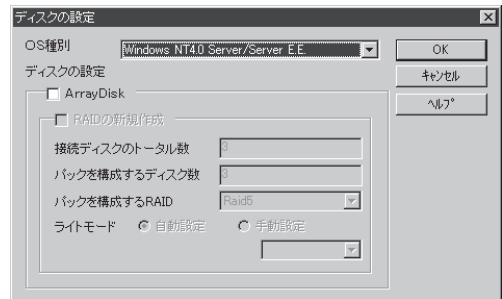


[キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定画面]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。

6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。



コンピュータからの情報採取

ExpressPicnicが、起動しているマシン(Windows XPは未サポート)のセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します。



チェック

- ユーザー/グループ情報は採取できません。
- リモートアクセスサービス(RAS)については設定情報を採取できません。
- アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。
- 取得できない情報に関しては、既定値を表示しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(150ページ参照)。
2. [オプション]メニューの[現マシンから情報取得]をクリックする。

取得後は、確認/修正画面に移ります。初期値が、取得したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」あるいは「情報ファイル修正」と同じです。

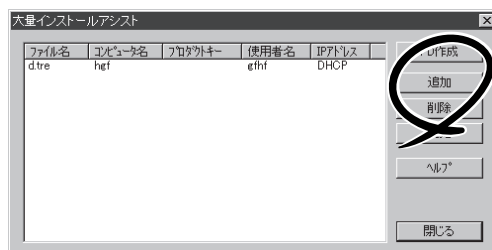
大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイル(Windows XP用は未サポート)を指定し、マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(150ページ参照)。
2. [オプション]メニューの[大量インストール]をクリックする。

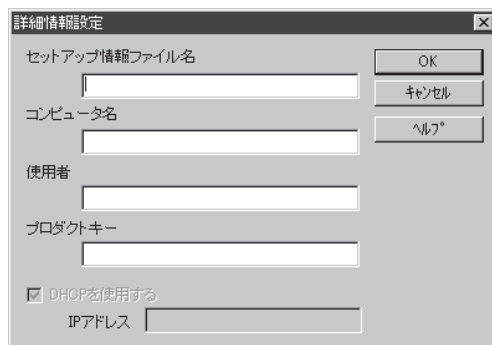
Windows 2000用の作成手順

1. [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。
ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。
2. [追加]ボタンをクリックする。



3. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。
4. [OK]ボタンをクリックする。
リストに追加した情報が表示されます。
5. ファイル名を選択し、[FD作成]ボタンをクリックする。

選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。



Windows NT 4.0用の作成手順

1. ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定する。
2. [セットアップパラメータFD作成時の設定] からどちらかのオプションを選択する。

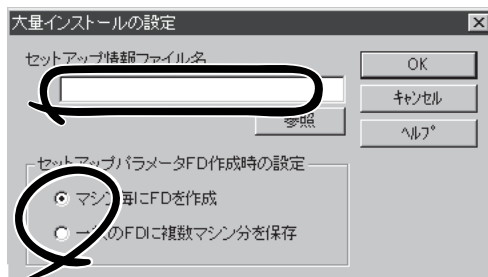
[マシン毎にFDを作成]

1枚のセットアップパラメータFDにセットアップ情報ファイルを1つセーブします。

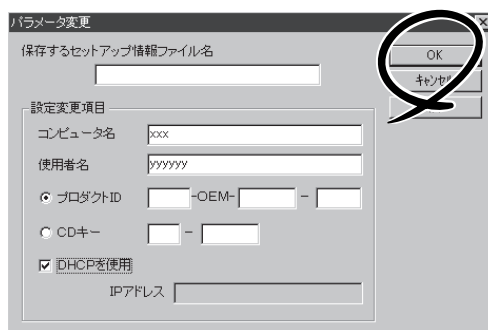
[一枚のFDに複数マシン分を保存]

1枚のセットアップパラメータFDに複数のセットアップ情報ファイルをおさめます。

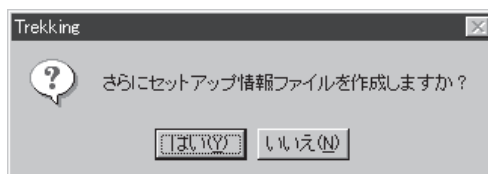
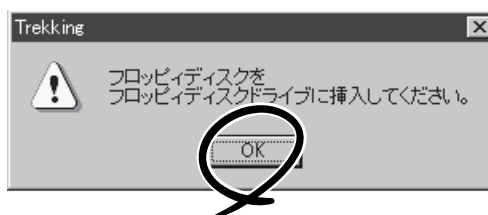
3. [OK]ボタンをクリックする。
4. マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、セットアップ情報を作成する。
ダイアログボックスが表示されます。
5. 必要な設定を終えたら、[OK]ボタンをクリックする。



6. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。
しばらくすると、さらに情報ファイルを作成するかどうかの確認があります。



7. セットアップ情報を作成するときは、[はい]ボタンをクリックする。
セットアップ情報を作成するダイアログボックスが表示されます。
[いいえ]ボタンをクリックすると、ExpressPicnicウィンドウに戻ります。



✓ チェック

[マシン毎にFDを作成]を選択した場合は、セットアップ情報ファイルを作成するたびにフロッピーディスクのセットを要求されます。[一枚のFDに複数マシン分を保存]を選択した場合は、同じフロッピーディスク上に作成したファイルをおさめるため、フロッピーディスクをセットする要求は1度しかありません。

Express本体用バンドルソフトウェア

Expressワークステーションにバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent(Windows XP/2000/Windows NT版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows XP/2000/Windows NT版)は、Windows XP/2000およびWindows NTで運用しているExpressワークステーションにインストールする本体監視用アプリケーションです。

ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



運用上の注意事項については、オンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Windows XP/2000/Windows NT版)インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent(Windows XP/2000/Windows NT版)を動作させるためにはWindows XP/2000、Windows NTのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動するヘルプを参照してください。

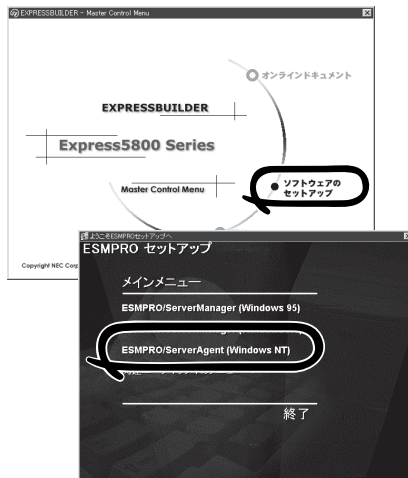
SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent (Windows XP/2000/Windows NT版)のインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。

Expressワークステーション上のWindows XP/2000/Windows NTが起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ESMPRO]→[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent (Windows XP/2000/Windows NT版)をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. Expressワークステーションを再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてインストールし直してください。

テープ監視ツール

テープ監視ツールは、Expressワークステーションに搭載したテープドライブ、ならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。

ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの失敗などを防止するために、テープドライブを搭載している装置にはこのユーティリティをインストールすることをお勧めします。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合があります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。サービスの設定は[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名: TapeAlertChecker
- スタートアップの種類: 自動
- ログオン: システムアカウント
[デスクトップとの対話をサービスに許可]にチェック

サービスに[TapeAlertChecker]がない場合は、装置にインストールされていません。次の「手動インストール(新規インストール)」を参照してインストールしてください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳しくはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。オンラインドキュメントは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにPDFファイルで格納されています。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥SG_TP2.pdf

動作環境

ハードウェア

- インストールする装置 Express5800/50、100、600シリーズ本体
- メモリ 500KB以上
- ハードディスクの空き容量 2.2MB以上

ソフトウェア

- オペレーティングシステム
 - Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Service Pack 5以降)
 - Microsoft® Windows® 2000 日本語版*

* 「テープ監視ツール Ver.1.0」はWindows 2000をサポートしていません。

- アプリケーション
 - － ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)(全エディション)
 - － ARCserve J6.5 for Windows NT (全エディション、Patch07が必要)
 - － ARCserveIT J6.61 for Windows NT (全エディション)
 - － BackupExec for Windows NT Ver.7.3
 - － NTBackup (Windows NT標準装備のバックアップツール)

監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです(2001年4月現在)。

- 内蔵/外付 AIT N8551-19、N8551-28、N8151-28、N8551-34、N8151-34、N8560-16
- 内蔵/外付 AIT集合型 N8551-20、N8551-29、N8151-29、N8551-36、N8151-36、N8560-17
- 内蔵/外付 DAT (DDS3) N8551-12、-12A、-12BC、N8151-12BC、N8560-12、-12AC
- 内蔵/外付 DAT集合型(DDS3) N8551-13、-13AC、N8151-13AC、N8560-13、-13AC
- 内蔵TRAVAN N8551-21
- 外付TRAVAN集合型 N8560-19
- 内蔵/外付 DAT (DDS4) N8551-26、N8151-26、N8560-22
- 内蔵/外付 DAT集合型(DDS4) N8551-27、N8151-27、N8560-23

アプリケーション	ドライブ					
	AIT	AIT集合型	DAT (DDS3/4)	DAT集合型 (DDS3/4)	TRAVAN	TRAVAN 集合型
ARCserve J6.0 (SP3)	×	×	×	○	×	×
ARCserve J6.5	○*	○*	○*	○	○*	○*
ARCserve J6.61	○	○	○	○	○	○
NTBackup	○	—	○	—	○	—
BackupExec Ver7.3	○	○	○	○	○	○

○: サポート ×: 未サポート —: 対象外

* ARCserve J6.5 Patch07が必要

インストール手順

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにある「Setup.exe」をエクスプローラなどから起動してください。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで説明しています。

インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。前ページの「カスタムインストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。

監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C:¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です(デフォルトの設定でインストールした場合)。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

FastCheckは、オプションのディスクミラーリングボードに添付の管理・監視ソフトウェアです。

ディスクミラーリングコントローラに接続したハードディスク(アレイディスク)の監視や状態の表示をしたり、万一、異常が起きたときにピープ音やポップアップメッセージの表示などで通知したりします。

また、ESMPRO/ServerAgent(Ver.3.4以降)との連携により、異常が起きたときにESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PCにアラート通報やALIVE通報をすることもできます。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にFastCheckがあらかじめインストールされている場合もあります。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にFastCheckがあらかじめインストールされている場合もあります。FastCheckがインストール済みのExpressサーバに後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、FastCheckを一度、アンインストールし、再度インストールし直して下さい。

シームレスセットアップを使ったセットアップ


FastCheckは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「FastCheck」を選択してください。


シームレスセットアップでFastCheckをインストールした場合で、後からESMPRO/ServerAgentをインストールした場合は、FastCheckを一度、アンインストールし、再度インストールし直して下さい。

確認事項

インストール済みのFastCheckについて次の点を確認してください。

- [スタート]メニューの[プログラム]に[Promise]という名前のフォルダが作成されていることを確認する。
- Windows 2000/Windows NT 4.0の起動後のタスクトレイに、FastCheckのアイコン()が表示されていることを確認する(FastCheckはWindows 2000/Windows NT 4.0常駐型のアプリケーションです)。
- コントロールパネルのサービスで「Promise FastTrak Service」が開始されていることを確認する。

- FastCheckが起動することを確認する。

[Promise]フォルダの中から[Fasttrak]—[FastCheck Monitoring Utility]の順に選択するか、タスクトレイのFastCheckアイコン()をダブルクリックすると起動します。

- FastCheckを起動後、[オプション]—[通知]—[NTシステムイベントログの使用]がチェックされていること(デフォルト値です)を確認する。



ESMPRO/ServerManagerをインストールした管理PCにIDEディスクミラーリングコントローラに関するアラート通報やALIVE通報をする場合は、「Promise Fast Trak Log Service」が開始されており、FastCheckのオプション設定[NTシステムイベントログの使用]がチェックされていなければなりません。

パスワードの設定

セキュリティ上、FastCheckを起動する際にパスワードによる確認ができるよう、パスワードを登録してください。パスワードはFastCheckを起動後、[オプション]—[パスワードを使用可能にする]を選択すると表示される設定画面で設定できます。

運用上の注意

FastCheckをインストールして運用する上で特に注意していただきたい点について説明します。FastCheckで表示される画面についての説明やその他の注意事項については、オンラインドキュメント「FastCheckユーザズガイド」を参照してください。

- ESMPRO/ServerAgentがインストールされているExpressワークステーションにFastCheckをインストールすることをお勧めします。ESMPROと連携したさまざまな管理・監視機能を利用することができます(ESMPROがインストールされていなくても、FastCheckの動作には支障がありません)。

ただし、ESMPROはVer.3.4以降のバージョンを使用してください。

- FastCheckの設定を変更した場合は、ダイアログボックス内にある[適用]ボタンをクリックして情報を更新してから終了してください。
- FastCheckの以下のオプションは規定値から変更しないでください。
 - [NT システムイベントログの使用] (規定値: チェック)
 - [書き込みキャッシュを使用可能にする] (規定値: チェック)
 - [ホットスペア/自動リビルドを禁じる] (規定値: チェックなし)
- ディスクのリビルドやシンクロナイズ(整合性の確認)の間もアクセスすることはできませんが、処理時間が長くなる場合があります。
- ESMPROからは、IDEディスクミラーリングコントローラで制御されているハードディスクは、1台のドライブとして認識されます。また、このディスクミラーリングコントローラはディスクアレイではなく、「SCSIコントローラ」として管理されます。

新規インストール

FastCheckを新規にインストールする場合(または再インストールする場合は)、オンラインドキュメント「FastCheckユーザズガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のワークステーション上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

インストール済みのエクスプレス通報サービスのセットアップ

購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストールレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]ボタンをクリックする。
アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
[エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。
エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ 18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 30.0MB以上
- モデム
ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由のエクスプレス通報で使用するモデムはNECフィールディングにご相談ください。
- メールサーバ
電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- Microsoft® Windows® 2000 日本語版(Server/Professional)
- Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Server/Workstation)
- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.1以降

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

ESMPRO/UPSController Ver.2.1

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるESMPRO/UPSController Ver.2.1について説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

インストール済みのESMPRO/UPSControllerのセットアップ

Expressワークステーションのモデルの中には出荷時に「ESMPRO/UPSController」がインストール済みがありますが、設定値はデフォルト値のままになっている場合があります。

ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

ESMPRO/UPSControllerサービス(SPOC-I Service)の起動

[サービスコントロールマネージャ]を開き、[SPOC-I Service]を開始してください。すでに、[SPOC-I Service]が開始されている場合はそのままかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

SPOC-I Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示すの処理を行う必要はありません。

■ 確認1 イベントビューアによる確認

Windows 2000/Windows NTの「イベントビューア」でESMPRO/UPSControllerが正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「SPOC-I Service」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

[正常] UPS通信開始

[異常] UPS通信エラー(無応答)

このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

■ 確認2 ESMPRO/UPSControllerのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]－[ESMPRO_UPSController]－[UPSController マネージャ]を起動する。
起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
2. [UPSController マネージャ]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。
[正常] UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示される。
[異常] UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示されない。
この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]－[ESMPRO_UPSController]－[UPSController マネージャ]を起動する。
起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
2. [UPSController マネージャ]のメニューバーより、[設定] - [動作環境の設定]を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

コンピュータとUPSの通信を行うCOMポート番号を正しく設定する。

使用するUPSを正しく設定する。

ESMPRO/AutomaticRunningControllerと連携して使用する場合に「する」を設定する。(連携して使用しない場合は、必ず「しない」に設定してする。)

3. 正しく設定した後、[UPSController マネージャ]のメニューバーより、[ファイル]－[上書き保存]を選択し、設定を保存する。
4. [コントロールパネル]の[サービス]を開き、[SPOC-I Service]を再起動する。
5. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

ESMPRO/UPSController Ver2.1を新規にインストールする手順を説明します。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストール

現在コンピュータにインストールされているESMPRO/UPSControllerをアンインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1(UL 1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってアンインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アンインストール後は、必ずコンピュータを再起動してください。

インストール

ESMPRO/UPSControllerのインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL 1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アップデートインストール

アップデートは次の手順に従ってください。

1. Administratorsローカルグループに所属するユーザーでログオンする。
2. 安全のために、必要最小限のアプリケーション(Serverサービスなど)を除くアプリケーションを終了する。
3. 「スタートメニュー」-「設定」-「コントロールパネル」-「サービス」で次のサービスを停止する。
 - SPOC-I Service
 - ESMPRO/ARC Service
 - SNMP Service
4. 「ExpressServerStartup」のCD-ROMをCD-ROMドライブに、「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL 1047-401)」のKey-FD(キーディスク)をフロッピーディスクドライブにセットする。
5. 「ExpressServerStartup」CD-ROMの中にある「SETUP.EXE」を起動する。
ESMPRO/UPSControllerのアップデートが開始されます。
6. アップデート完了後、システムを再起動する。

7. 再起動後、ESMPRO/UPSControllerマネージャを起動し、ESMPRO/UPSControllerのバージョンを確認する。

ESMPRO/UPSController Version 2.1

以上でアップデートは終了です。

PowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2J

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるPowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2Jについて説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

インストール済みのPowerChute *plus*のセットアップ

Expressワークステーションのモデルの中には出荷時に「PowerChute *plus*」がインストール済みの場合があります。ただし、PowerChute *plus*はデフォルト値の状態です。

ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChute *plus*サービス(UPS-APC PowerChute *plus* Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス]を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service]を開始してください。

すでに、[UPS-APC PowerChuteplus Service]が開始されている場合はそのままかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChute *plus* Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。

動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

■ 確認1 イベントビューアによる確認

Windows NTの「イベントビューア」でPowerChute *plus*が正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「UPS」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

[正常] UPSとの通信が確立しました。

[異常] UPSとの通信が確立できません。

このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

■ 確認2 PowerChute plusのGUIによる確認

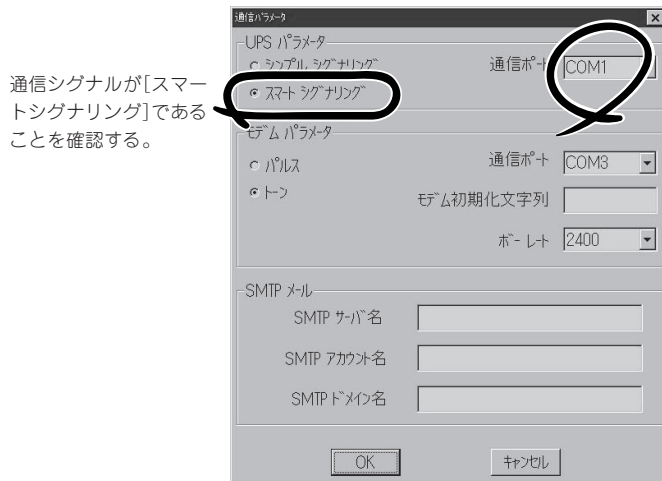
「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]－[PowerChutePLUS]－[PowerChutePLUS]を起動する。
起動方法の詳細はPowerChute plusの「インストールガイド」を参照してください。
2. [PowerChutePLUS]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。
[正常] データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが表示される。
[異常] UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などがグレーアウトで表示されている。
この後の「設定変更」を参照してPowerChute plusの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]－[PowerChuteplus]－[PowerChuteplus]を起動する。
起動方法の詳細は、PowerChute plusの「オンラインヘルプ」、またはPowerChute plusに添付の「ユーザズガイド」を参照してください。
2. [PowerChuteplus]のメニューバーより、[構成]－[通信パラメータ]を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。



通信シグナルが[スマートシグナリング]であることを確認する。

コンピュータとUPSの通信を行うCOMポート番号を正しく設定する。

3. 正しく設定した後、[OK]ボタンをクリックし、「PowerChuteplus」のメニューバーより、[システム]－[別のサーバを監視]を選択し、再度監視するサーバを選択する。
4. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChute plusの新規インストール(再インストール)については、PowerChute plusに添付の「インストールガイド」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

Expressワークステーションをネットワーク上から管理するための「管理PC」にインストールするバンドルソフトウェアとして「ESMPRO/ServerManager」がEXPRESSBUILDERの中に入っています。

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、EXPRESSBUILDERにバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメント、またはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



運用上の注意事項については、オンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。